

第 1748 回（4 月 14 日）

中山間地域の人口動態と過疎化要因

橋 詰 登

本報告は、1975 年以降の国勢調査の市町村別人口データを農業地域類型別に組み替え集計し、地域の人口動態と高齢化の進行状況を農林業サイドからみた地域属性別に明らかにすると同時に、中山間地域の過疎化要因について検討することを課題とした。具体的には、地域人口の動向と高齢化状況について地域性の検討を行った後、両者の関連性について考察した。また、中山間地域における人口減少の社会経済的要因を計量分析から検討した。分析結果は以下に要約される。

1) 地域人口の動きをみると、中間農業地域と山間農業地域ではその態様が大きく異なっており、特に、山間農業地域で過疎問題が深刻化している実態が確認された。

また地域的には、北海道、東北、北陸、四国、九州といった大都市圏から離れた地域ブロックにおいて人口減少率が高く、稲作への依存度が高い水田型地帯に比べ、畑地型地帯で近年過疎化が進行していることも明らかとなった。

2) 他方、高齢化の状況についてみると、西日本の山間農業地域における高齢化の進行が著しく、中国や四国の同地域では、既に地域人口の 4 分 1 以上が 65 歳以上の高齢者となっている。また注目すべき点は、高齢化水準の高い地域ほど、近年の高齢化の進行速度が早いことである。従来から高齢化の進んでいた中国、四国、九州の山間農業地域、その中でも特に畑地型地帯では、この 5 年間に老年人口比率が一気に 5 ポイント以上も高まっている。これらの地域では幼年人口比率のみならず、地域社会を支えている生産年齢人口の比率さえも低下しているのが特徴である。

3) 中山間地域では、過疎化と高齢化が相互に密接な関連をもって進行しており、地域

的にみれば、山間畑地型地帯で人口の減少とともに高齢化が著しい。零細規模の農家が太宗を占める中山間地域では、比較的安定した収入を得ることができ、かつ、休日の労働だけで生産が可能な稲作に依存してきた地域（水田型地帯）と、恒常的な兼業が困難な畜産や畑作に依存してきた地域（畑地型地帯）とでは、人口問題の深刻さに大きな違いが生じている。

4) 中山間地域の過疎化要因分析からは、中山間地域の定住人口を維持するためには、何よりも地域住民の所得確保が最重要課題であることが明らかとなった。所得を確保するためには、就業の場が必要になるわけだが、分析結果は、自由に選択が可能な就業の場が自市町村内に限らず、近隣に豊富に存在することが、地域の定住人口確保にとって大きな意味をもつことを示唆した。

また、専門的な農業経営を行う農家の割合（上層農家率）が上位の要因となったことは、限られた就業先しかない当該地域において、農業も重要な就業の場であることを裏付けたものとして注目される。中山間地域での農業振興は農産物の供給や地域資源の保全ばかりでなく、地域人口の維持にとっても重要なのである。

なお、所得水準や就業条件のみでなく、高校への通学や病院への通院可能性も有意な指標として選択された。中山間地域においては医療や教育といった生活環境面もまた、定住人口確保のためには無視できない要素となっている。中山間地域の過疎化をくい止めることは、高齢化の進行を抑えることにもつながる。中山間地域の活性化を図っていくためには、これら生活環境面をも含めた総合的な対策を、早急に講じることが求められている。